資料3
「2030 デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会
（第 11 回）R7.11.21

大学図書館におけるAIへの対応に係る検討について（案）

【前提】

○　AI の利活用にはプラスの面とマイナスの面があるが、大学の教育研究活動にも浸透してきている状況を踏まえると、マイナスの面を気にしすぎて過度に慎重になるのではなく、大学図書館も AI をどのように使っていくかを能動的に考えていくことが重要。

【主な観点例】

（１）AI 時代における大学図書館

１　AI 時代における大学図書館の役割とは何か。

２　今後、大学で AI の利活用によって行われる教職員・学生向けサービスの中で、大学図書館はどのような役割・機能を果たしていくことが求められるか。

３　AI の利活用が、大学図書館間の連携にどのように寄与するか。

４　AI が教育研究活動や社会活動に急速に浸透してきている状況を踏まえて、デジタル・ライブラリー像を修正すべき点等はあるか。　等

（２）大学図書館のサービス業務・管理運営業務への AI 利活用

１　AI の利活用により、どのようなサービス業務や管理運営業務で、効率化や高度化が見込まれるか。また、どのようなサービスが新たに創出できるのか。

２　AI の利活用になじまない、あるいは AI 技術を利活用しても効率化や高度化が見込めないサービス業務や管理運営業務は、どのようなものがあるか。　等

（３）AI に対する大学図書館の貢献

１　AI 基盤モデルの高度化のために、大学図書館はどのような貢献ができるのか。

２　教職員や学生の AI リテラシー向上のために、大学図書館はどのような役割を果たすことができるのか。　等

（４）AI 時代における大学図書館職員

１　AI 時代において、学習支援や研究支援に携わる大学図書館職員像とはどのようなものか。

２　AI を利活用したサービス業務や管理運営業務において、当該業務に従事する職員には、どのような知識・スキルが必要になると考えられるか。

３　AI 時代におけるデータ・キュレーター等の研究データマネジメント業務において、大学図書館職員はどのような役割で貢献できるか。そのために、どのような知識・スキルが必要になると考えられるか。

４　その他、AI の急速な浸透に伴い、新たに期待される業務は何か。　等